

「和製インテグレーターを目指す」ANAグループが注力する国際物流ビジネス

65
創刊65周年

平成29年9月19日発行(隔週火曜日)平成29年9月5日発売 昭和28年10月3日第三種郵便物認可 第65巻第19号

財界

Z A I K A I
a Japanese business biweekly

LNG一本足からの脱却へ
千代田化工・山東理二の
エンジニアリング革新論
「プラント建設後の
運営・管理まで手掛ける！」

2017 9/19

我々の強み。新しい取り組みへの挑戦を

株式会社化
から7年

第一生命HD・稲垣精二の変革のDNAが

これからの生保経営 海外の成長取り込み、国内市場の掘り起こしへ

本誌主幹
村田博文



◎インタビュー

J.フロントリテイリング社長
山本 良一
青山学院大学大学院教授
八田 進二

◎日本の進路と役割

石油資源開発会長
渡辺 修

第一生命
ホールディングス社長
稲垣 精二
撮影 齊田 勲



DJ AMIGA

2001年よりElectrical LOVERSとして音楽活動をスタート。人気アーティストのRemixも手がけ、水族館、ホテル、美術館などの空間音楽やサウンドトラックを制作する女性アーティストとして人気を博している。また、DJとしても、TiffanyやHERMESといったハイブランドのパーティーから大型フェス、店舗BGMのプロデュースまで、国内外で活躍している

た。DJとして心掛けていることは、やはり、自分が楽しんでないとお客さんも楽しく無いと思うので、自分が楽しむことです。音楽をつくるならともかく、自分がDJをするなら思ってもいませんでした。好きなことならどんどん進んでいくのだと実感しています。

池田 実際にDJの仕事というのはどんな感じで行われるのですか。AMIGA DJというのはディスコやクラブで、その場の雰囲気に合わせて選曲していくものです。ディスコはキラキラゴージャスな世界

ですが、クラブは着飾るというよりも音楽と向き合う世界というか、ひたすら踊って音楽を楽しむという特徴があります。

お客様の関心がどこにあるのかを考えて

具体的には、機材の上にはターンテーブルが2つあって、DJがヘッドホンを付けて何をやっているのかというと、次の曲を聴いているんです。だから、再生機が最低でも2つないと、曲が終わる前に次の曲を再生できないんです。

池田 常に先を読んで選曲している？ AMIGA ええ。要するに、クラブではダンスフロアでみんなが踊り続けているので、曲を途切らせてはいけません。だから、今かかっている曲に次の曲を重ねて、次はどこで今の曲とつなぎ合わせようか、テンポをどう合わせていこうかというのを考えているんです。

わたしは企業のレセプションパーティに呼ばれて行くことが多いんですが、例えば、高級車や高級ブランドのパーティーと、若い人たちが集まるクラブではお客さんの層が全然違いますから、その場のお客さんの雰囲気によって音楽を考えるというのとはとても重要だと思えます。

池田先生と音楽のつながりはいつ頃からですか。

池田 今は言葉がわからない音楽というのが世界的にウケているんです。あつたとしても、あまり歌詞の無い歌です。当然、国が違えば言葉も違いますが、逆に言葉が無ければ国境を超えることができるようなんです。そういうことで、今は言葉の無い音楽の方が、世界中の人たちが楽しむことができるのだと思います。

わたしはあまりヒップホップが詳しくなくて、どちらかというとハウスやテクノなんです。いわゆるメッセーj性が強い音楽というよりは、音のモジュレーションで言葉が要らないという感じの音楽が好きです。

「DJは観客をよく観察し、その場にあったサービスを瞬時に提供していくことが大事」

東京皮膚科・形成外科総院長

池田欣生 × DJ AMIGA

東京・西麻布の劇場型レストラン「81(エイティワン)」にて

プロフェッショナル対談第4弾は、サウンドクリエイターとして、アンダーグラウンドからハイブランドのパーティーまで、幅広く音楽の世界で活躍するDJ AMIGAさんが登場。近年は日本のみならず、アジアやアメリカ、ロシアなど海外でも活躍するAMIGAさんの音楽活動の原点とは何なのか。美容医療業界の発展に尽力してきた池田氏との異色対談。

お客様の雰囲気について

池田 DJ(ディスクジョッキー)として国内外で活動を続けるAMIGAさんですが、まずはDJの世界に飛び込んだきっかけを教えてください。

AMIGA わたしは4歳からピアノを始め、小学5年生でエレキトーンに出会い、電子音楽の虜になりました。それでパソコンを使って自分でも電子音楽をつくるようになって、20代の頃は作曲などの仕事をしていた。

女性のDJを探しているという話を聞きまして、当時はまだ女性のDJは少なかったので興味を持ったんです。というのも、それまではディスコやクラブはターンテーブルで、みんなどこに行くのもレコードなどの重い荷物を持ち運んで移動してしましたから男仕事で、ちょっと女性には大変な仕事だなど思われていたんです。

池田 女性DJの先駆けということですね。

AMIGA そこまで言うの大げさですけど、当時はあまりいませんでした。見よう見まねで始めたDJでしたが、女性のDJが珍しいということもあって、いろいろなイベントに声をかけてもらえるようになったんです。

わたしはすぐにクラブや音楽の楽しさにどんどん魅了されて行きまし



いけだ・よしお

大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学付属病院形成外科入局。同大学付属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる

も日本ならではの良さがあって、そうした特徴をもっともって世界に発信していきたいと思っているのに、リピートして呼ばれるようにならないと意味がないじゃないですか。そういうジレンマがずっとありまして、わたしも長くDJ活動を続けてきましたから、今度は世界に通用する若いDJを育てたいと思うようになりました。

池田 DJになりたいと考えている女性は多いんですか。
AMIGA DJに興味を持つ若い女の子は結構いますよ。「DJ Ochazuke」といって、和服を着てDJをやるというスタイルで活動しているDJグループをプロデュースさせてもらっています。最初は3人ぐらいで始めましたが、そこからだんだん人数が増えてきて、いまは10人くらいメンバーがいます。来年あたりにはメンバーを20人くらいに増やしたいと考えていて、そしてわたしが現場に出なくても若い子たちだけで現場を回せるようになるだろうと。もちろん海外進出も考えています。うちのチームのいいところはアメ

リカやロシア、中国など、いろいろな国の人たちが入っていて、とてもインターナショナルです。みんな赤い着物を着ているので、海外の人たちは特に喜んでくれますし、イベントが終わると多くの人から写真を撮ってこれと言われます(笑)。
池田 京都の舞妓さんのような感じですから、話題になるでしょうね(笑)。
AMIGA そうなんです。7月に楽天がスペインのサッカーチーム、FCバルセロナとパートナー契約を締結して、その記念パーティーでOchazukeがパフォーマンスをしました。8月には徳島で行われた阿波踊りのアフターパーティーでもパフォーマンスをしましたし、毎月月末の金曜日には東京・銀座の商業施設「GINZA SIX」でも活動しています。
わたしたちはDJの他にもマイクパフォーマンスをしたり、ダンスを踊ったりして、その場を華やかにすることを目指しています。とにかく、お客さんにいいものを提供し、お客さんが楽しいと思ったり、喜んだりしてくれればと。皆さんに日々、元氣と笑顔をお届けしたいと思いがら活動を続けています。

東京皮膚科・形成外科銀座院

〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8
ラウンドクロス銀座 3F

TEL 03-3545-8000

HP <http://www.251901.net/>

DJ AMIGA

HP <http://www.electrical-lovers.com>

<http://twitter.com/DJAMIGA>

DJ Ochazuke

HP <http://www.ochazuke.jp/>



ラブイベントやるからDJやりに来てよ、と言われてたりして、音楽とは結構つながりがあったんです。ですが、医師になってからは仕事も忙しくなって、あまり音楽に触れる機会も無くなっていったんですね。ただ、昨年病気になるまで本当に自分が死んでしまうのではないかと考えた時があった、その時に過去に楽し

かった思い出って音楽をやっている時だったなって思ってたんです。そこから夢を持って音楽をやっている人たちを応援しようと考えてるようになりました。
—— 自分ではできないけど、応援することはできると。
池田 そういうことです。先ほどのAMIGAさんの話を聞いていて

思い出したことがありました。以前知り合ったDJの方がいて、その人もお客さんの様子をずっと観察しているんです。それでこの辺のお客さんがこういう曲が好きなんだなと思ったら、そういう曲をかけて、お客さんを踊らせる。
また、目の前のお客さんが疲れてきたなと思ったら奥にいるお客さんを踊らせていく。そうやって個々のお客さんの様子を見ながら、結果的に全体を楽しませていくというのはすごいと思いました。
—— そうしたことは医師の世界でも参考になりますか。
池田 もちろんです。今は自分も医師になって、同業の先生たちの前で講演したり、大学で講義を行うことがあるんです。だから、その時は来ている人たちをよく見て、どんなことに関心があるのかを考えながら講演するようにしています。
中国でもよく講演するんですけど、日本で講演するのと同じようにお客さんの様子を見て、今日は女性が多いからこういう話をしようとか、若い先生が多いからこういう話にしようとか考えて話していくと、「あなたの話は毎回内容が違って面白い」と言われたりもしますね。

元氣と笑顔を届けたい！
池田 AMIGAさんはこれからどんな活動をやっていきたいと思っていますか。
AMIGA やはり、今以上に自身の幅を広げていくことも大事なんです。最近では若いDJを育てていきたいと思っています。
日本人DJとして世界各国を回らせてもらいましたが、海外に行くたびに思うのが、日本のDJというのはスキルがあるのに、英語ができないだけで全然中に入っていないんです。だからせっかく海外でやらせてもらっても十分なコミュニケーションが取れないまま終わってしまう。音楽以外にも文化やファッション



AMIGAさんがプロデュースする [DJ Ochazuke]